

8月20日

龍王山

平尾 繁和

山名	龍王山 (585m)	山行名	例会		
ルート	天理トレイルセンター (長岳寺駐車場) ~山辺の道分岐~分岐~南城跡~分岐~長岳寺駐車場				
山行日	2020年8月20日 (木)	天候	晴れ		
参加者	CL:平尾 SL:西川洋 女性6名、男性2名 A班:和田、玉置、河野、B班:玉井、伊藤多、倉光 /8名				
ルート概略	コースタイム				
省略	地名	時:分	地名	時:分	
	京田辺	発	南城跡	着	10:30
		着		11:15	
	天理トレイルセンター	着	北城跡分岐	着	11:20
		発		11:20	
	山辺の道分岐	着	長岳寺駐車場	着	12:40
		発		12:50	
	北城跡分岐	着			
発		10:20			
<p>「低山 with 歴史散歩」の第4回目。予想以上の猛暑のなか、申込者全員キャンセルもなく参加があり8名で実施。京田辺を6時40分出発、京奈和自動車道、名阪自動車道をはさみ8時過ぎに天理トレイルセンターに到着。長岳寺駐車場で準備体操をして8時30分歩きだす。行燈山古墳 (崇神天皇陵) の縁に沿い櫛山古墳をみて、山辺の道と分かれて舗装路の登山道へ入る。セミがにぎやか、小さなカナヘビやカエルが足元から飛びだす。この時期歩く人もあまりなかったのであろう。不動の滝など沢を右に平坦な道が続き、やがて山道に入る。アブ (虻) があらわれつきまとわれる。先頭を行く私の背中や脚にも4~5匹飛びまわっているという。1人刺された人が出たがあまりひどくはなかった。樹林のなかの細い山道をどんどん高度をあげていく。途中にあるという龍王山古墳群は林の中で気づかぬまま通り過ぎた。前半はゆるやかだったが途中から急な段差の道となり休憩をはさみながら行く。長岳寺奥の院 (左へ80m) の分岐を右へ山頂をめざす。舗装路にでると北城跡や下山路との分岐で、トイレがあり手前に水栓があったが閉まっていた。右手にこの山の名の由来となっている藤井田龍王社が祀られている。案内板にそって約10分、途中急な段を上り山頂南城跡についた。西側に展望が開け、かなたに二上山から葛城山、金剛山へ続くダイヤモンドトレイルの峰々がかすんでいた。目を近くに戻すと奈良盆地、大和三山や箸墓などの古墳が見えた。城跡は広く、遊具やベンチが置かれ木陰で長めの休憩をとり食事をする。気持ちのよい涼風があり、沢歩きの話やアルプスや北海道、東北などみなが行きたい山の話で盛り上がった。ぜひ21年度山行計画アンケートに書いて下さいね。(山行部からのお願い) あまり心地よいので休憩を少し延長し下山する。途中の林でリスを見かけ、みなで行方を追った。分岐からは木の階段がかなり整備されていて歩きやすかったが、後半からは花崗岩質の岩盤が露われ、道が挟まれて狭くなりすべりやすくなっていた。樹林を抜け、柿の畑が右手に現れると間もなく長岳寺の門前にでた。さすが下界は猛暑のさなかであった。釜口大師ともいわれる長岳寺は、毎月21日が参拝日で多数の参詣があるそうで、その前日で日が重ならずによかった。駐車場で次回の要望など聞き解散をしました。</p>					
ヒヤリハット	なし				



南城跡 背景は奈良盆地に葛城山系



城跡山頂ゆっくり

休憩



北城跡への分岐



長岳寺前からのぞむ龍王山



長岳寺 山門前

一言感想

和田 千恵

○何とも暑い1日でしたが、汗を滴らせながら楽しい山行でした。山道が木陰だったので助かりましたし、南城跡の展望は暑さを忘れさせ遠く二上山や葛城山が奈良盆地の背景になって霞んでいました。その遠く青いグラデーションを眺めながら、心地よい風に恵まれてしばしの歓談は、出発時刻を10分ほど延長させる爽やかなものでした。長岳寺のスタート地点に戻ったのは12時半ころ、そのあと寄道で氷いちごや宇治金時を喉に流し込み体を冷やしてから再度車に乗り込みましたが、城跡のあの涼やかな風とは真逆のカンカン照りの駐車場！天理から奈良公園のまばらな鹿を眺めながらの帰路でした。

伊藤 多恵子

○猛暑のさなかの低山歩きも3回目ですが、京都も奈良も38度の予報が出たこの日が一番でした。登山道は草むらや林の中で、そよとも風が吹きません。同行してくれたのは、一人当たり数匹のアブ。アームカバーやシャツの上から刺されること3回。でも、時々大きな鳥が運んできてくれた冷たくみずみずしいぶどうを口にすると生き返るようでした。それに、ベンチの置かれた頂上広場の涼しかったこと！みんな、帰りたくないなあ〜という顔でくつろぎました。龍王山、行ってみると上りも下りも急坂のある少し手強い低山でした。それにしても、どの例会でも（公共交通機関の利用を避けるため）車の提供と運転をしてくださったHさん、Nさんにはどんなに感謝してもしきれません。ありがとうございました。

倉光 展子

○蒸し暑い日だった。木々のおかげで強い日差しは避けられたが、何よりもうっとうしかったのは付きまとうブト。しかし頂上へ上がってみると、ほてった顔に一陣の風。これを味わうために登ってきたようなものだ。苦労(?)のしがいがあった。点在する前方後円墳はじめ、眺望は素晴らしかった。なまった体も少しずつ鍛えられている。計画してくださったリーダーの平尾さん、運転はじめ、いつもいろいろお世話になっているサブの西川さんありがとうございました。

※ アブ(虻)は、ハエのなかまの昆虫(ハエ目)で、7~9月が活動的な時期です。何種類かいますが、動物の血をエサとしているものがあります。(アブ科のヤマトアブ等)山や溪谷で登山者に寄ってくるのはエサとしての血を求めてのようです。吸血するのはメスのみで産卵するときにタンパク質を必要とするために血を吸うといわれています。ハチは攻撃や防御のためお尻の針で刺すのにたいし、ア

ブは血を食べるため口にあるストロー状の針で、皮膚を噛み切るように刺します。厚手の洋服の上からも刺される場合もあるそうです。アブは匂いに反応して獲物を探し、黒や紺の衣服を着ている人に寄っていく傾向があり明るいオレンジ色には近づかないともいわれています。湿度がある場所などが好きといます。刺されると痛み、かゆみがあり、耐えきれず掻きむしると悪化する恐れがあり、いつまでも症状がある場合は受診・薬の処方が必要です。予防法として、アブはハッカ油（薬局で入手できる）を嫌うので消毒用エタノールと水でスプレー用に液を作成すると効果的があるようですが、市販の殺虫スプレーの利用でも間に合うかと思います。今後、出発前に虫除けスプレーをすとか気を付ける必要がありますね。ただ、アブのなかまでも全てのアブが人を刺すわけではなく、花の蜜を吸ったり、植物食のアブも多くそれらは無害です。

<参考資料>

長岳寺(釜口大師)

山の辺の道沿いにある弘法大師が824年に開基したとされる真言宗寺院。本堂にはわが国最古とされる玉眼入りの阿弥陀三尊像がある。玉眼は以降の運慶・快慶で有名な慶派の仏像彫刻に生かされた。重文の楼門は藤原時代のもので珍しい遺構。かつては400余棟の僧房がある大寺であった。龍王山頂近くの奥の院に鎌倉時代につくられた不動明王像がある。

崇神天皇陵

古くから「山辺鈎岡上御陵」とよばれた巨大な前方後円墳。南にある景行天皇陵や箸墓とともに前方後円墳の宝庫である柳本古墳群の一角をしめる。全長242mで周囲を濠がめぐらされている。周濠は江戸末期に柳本に陣屋を構えた小田氏が灌漑利用を兼ねて大々的に整備しなおしたものの。隣接する史跡の櫛山古墳は双方中円墳という珍しい墳形が特徴。

龍王山古墳群

龍王山の西斜面（標高150～450m）に円墳と横穴がそれぞれ300基、あわせて600基が点在している古墳群。6～8世紀にかけての古墳といわれている。

龍王山城跡

龍王山の名は、山腹に祀られている柳本及び藤井・田の龍王社に由来する。龍王山上には中世の豪族十市氏が築いた大和を代表する山城跡がある。十市遠忠が天文年間（1532～55年）に拠を構え十市城ともいわれた。のち松永氏や秋山氏が入城したが織田信長により廃された。奈良盆地と大和高原を結ぶ要衝の地で、北城跡と南城跡があり、南城跡からは奈良盆地や金剛生駒の山々が眺められる。